



スポーツの成長産業化を目指します！

令和6年度 第3回

しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議

日時：3/28（金）15時30分～ 場所：県庁別館9階特別第二会議室

目次

1. しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の目的	4
2. 第3回議事次第	6
3. 策定スケジュールについて	8
4. 検討会議を踏まえた素案への反映状況	10
5. 静岡県議会 文化観光委員会での県議からの質疑状況	16
6. 議論の検討資料	18
7. 議論していただきたいポイント	23
8. 参考資料	25

1.しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の目的

第3回目では「しずおかスポーツ産業ビジョン（素案）」の内容について合意形成を図る

趣旨	国では、「日本再興戦略2016」において、スポーツ産業の市場規模を2015年の5.5兆円から2025年までに15兆円へ拡大することを掲げ、スポーツの成長産業化を推進する施策を実施している。静岡県においても、多くのプロスポーツチームが本拠地を有するとともに、ものづくり産業を中心とした企業の集積が進み、スポーツの成長産業化に向けた条件が整っている。 スポーツ産業は様々な分野と関連があることから、市町、民間企業、競技団体およびスポーツチーム等の関係者の意見を踏まえつつ、連携していくことが重要である。 静岡県におけるスポーツ産業の市場規模を効果的かつ効率的に拡大させるため、スポーツの成長産業化に向けた施策の方向性や道筋を検討する有識者会議（以下、「会議」という）を開催し、会議の意見を反映させた「しずおかスポーツ産業ビジョン」を策定する。				
本会議の位置付け	本会議は、 静岡県スポーツ推進計画において基本方針に掲げる「地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化」のうち「経済の活性化」に関する検討 を行う。				
検討事項	本会議では、以下大きく2つのテーマに沿って議論・検討を行う。 1. KPIの設定 2. 具体的な取組内容				
開催予定	第1回：R6.12.5 - スポーツ産業における国の指針、県内状況の共有 10年後に目指すべき姿 - 施策の方向性	第2回：R7.1.31 - KPIの設定に向けた方向性 - 具体的な取組内容	第3回：R7.3.28 <ビジョン素案決定> スポーツの成長産業化に向けたKPI設定、具体的施策の決定	パブリックコメント	第4回：R7.6月頃 パブリックコメントを踏まえ、最終版を策定

2.第3回議事次第

第3回しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の概要

第3回有識者会議

日程	2025年3月28日（金） 15時30分～17時00分
場所	- 静岡県庁 別館9階特別第二会議室 - オンライン（ZOOM）
参加者	- 本会議における有識者委員 - 静岡市・浜松市（オブザーバー） - 事務局（静岡県・EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社）
配布資料	- 議事次第 - 委員名簿 - 座席表 - 事務局資料

議事次第		
時間	プログラム	備考
3分	開会挨拶	静岡県より
3分	議長挨拶	議長より
12分	事務局より資料説明 - 策定スケジュールについて - 検討会議を踏まえた素案への反映状況 - 静岡県議会文化観光委員会での県議からの質疑状況	静岡県より
65分	検討事項（各会議委員発言） - KPIの設定 - 静岡県のスポーツ産業市場規模（全体額）について - 施策2（県内産業とスポーツ分野の共創事業展開）の市場規模の算出方法について - 具体的な取組内容 - 追記する内容 - 修正する内容	各会議委員より
5分	議長よりまとめ	議長より
2分	次回会議について	静岡県より

3.策定スケジュールについて

3. 策定スケジュールについて

**本検討会議で「しずおかスポーツ産業ビジョン（素案）」を決定し、パブリックコメントを行う
パブリックコメントを踏まえた最終版については、7月末に公表する予定**

日 程			内 容	備 考
R 6	12月	5日	第1回検討会議	○検討内容 ・スポーツ産業における国の指針、県内状況の共有 ・10年後の目指すべき姿、施策の方向性
R 7	1月	31日	第2回検討会議	○検討内容 ・K P I の設定に向けた方向性 ・具体的な取組内容
	2月	12日	検討会議委員へ素案（事務局案）を送付	委員意見を踏まえた修正
	3月	6日、7日	2月県議会 文化観光委員会	
		28日	第3回検討会議	○検討内容 ・しずおかスポーツ産業ビジョン（素案）について
	4月	中旬	パブリックコメント開始	
	5月	中旬	パブリックコメント終了	
		下旬	検討会議委員へ事前説明	パブリックコメントを踏まえた修正箇所
	6月	上旬	第4回検討会議	○検討内容 ・最終版の決定
	7月	7日、8日	6月県議会 文化観光委員会	
		31日	しずおかスポーツ産業ビジョン公表	

4 .検討会議を踏まえた素案への反映状況

検討会議での意見を踏まえて、素案（事務局案）を策定した

日時	令和7年1月31日（金）13時30分～15時30分			会場	県庁別館9階特別第二会議室
出席者 ◎：議長	会場	村田委員◎、石黒委員、山谷委員、庄司委員、中村委員、中山委員、馬瀬委員、松永委員			
	オンライン	浜浦委員、馬瓜委員、山崎委員	欠席	鈴木委員	
自由討議の 主なポイント	■ 10年後に静岡県が目指すべき姿、本県のスポーツ産業市場規模の現状及び10年後の目標				
	- スポーツを産業として考えた場合、<u>5つの施策を並列にするのではなく、施策1の「みる」スポーツが中心であることを示したほうが良いのではないか。</u>特に「スタジアム・アリーナ改革」が中核。プロスポーツやイベント等、魅力あるコンテンツが重要。行政にはハード面に加えて、<u>コンテンツを高めるための支援を期待したい。</u> - 経済波及効果を考えると、域外から人を呼び込むことが大事である。その観点で、プロスポーツに関する施策及びツーリズムに関する施策が重要。1チーム、1スポーツに関わらず、県全体で連携し経済波及効果を生む観点では、試合観戦だけでなく、長時間滞在する仕組み作りが必要。 - 市場規模の測定については、今後も継続的に計測することを前提とすると、毎年取れるデータで測定することが重要。計測可能なデータを定期的に確認し、市場としての伸びを把握し、具体的な施策の追加等を実施すると理解している。一方で、観光など分野によっては、データを取得するのが困難である。入手困難な分野は思い切って、測定しないなどの判断があってもいい。 - 経済を拡大する上では、プロスポーツやスタジアム・アリーナを重点領域とすることは同意。<u>インパクトのある分野から投資が必要である。</u>市場規模の算出方法として、国・積み上げ両方を実施する考え方がベスト。国をベースとすると県独自の部分が反映されづらいが、計算方法としては正確性が担保される。本件独自の積み上げにおいては、県の施策が反映されやすい。ただし、8分野がすべてを網羅されているわけではなく、メーカーなど数が多い部分が抜けているなど課題はある。 - プロスポーツクラブが議論の中心になっているが、<u>富士スピードウェイなど有名な世界的に知ってもらえるプロパティをフックにするのも良いのではないか。</u>差別化という観点では有効であるとする。地元の人たちにとってのエンタメ空間を作るという観点に加え、海外の方を呼ぶフックとして投資する考え方があっても良いのではないかと。 - コンテンツの中にハードとソフトがある。プロスポーツはソフトのイメージ。既存のハードやソフト含めてそれぞれ不足するものと考えられると良い。 - 市場規模としての数値は納得感あり。その上で、方向性の議論が大事。「支える」を外すという意見も出た。県民へのメッセージを考えた場合に、<u>各施策の順序建ては必要だが、メッセージとして「支える」を消すのは望ましくないと認識。</u> - 本事業においては、スポーツ産業の軸としての検討となるため、中核としての見せ方にする、構造化するという方針にとどめた方が良い。				

検討会議での意見を踏まえて、素案（事務局案）を策定した

自由討議の 主なポイント

■ KPI・施策の方向性

① プロスポーツチームとの連携

- ・ 相対的なKPIとしてリーグ内の上位に入るという観点があっても良い。
- ・ 売上をKPIに明記するのは危険であり、利益をどのように地域に還元させるかという観点が重要と考える。
- ・ KPIの責任所在によって、先行投資の判断に影響を与えかねない。
- ・ 新興スポーツビジネス（バレーボール、卓球等）をどう支援していくか。女性スポーツのビジネス化を入れ込んでいくのはどうか。

② スタジアム・アリーナ改革

- ・ 利用シーンを多角化させる観点で多目的スタジアムを考えるケースが多いが、専用スタジアムにするなど、見る人の満足度を高めるKPIが必要と考える。

③ 県内産業との融合による新たな産業創出

- ・ ビジネスの掛け合わせの観点では、スポーツに絞らず広い観点で見れば意味はある。県内支援機関は多くあるため、既に実施しているところとの連携を検討することを含めて、プラットフォームを新規で作るべきかの再検討が必要ではないか。
- ・ スポーツというキーワードに今まで目を向けていなかった人たちが、もしかしたら本施策をきっかけにして新たなビジネスが生まれるかもしれないという期待感はある。その期待を込めると、KPIの設定値が低すぎるのではないか。

④ スポーツツーリズムの拡大

- ・ スポーツコミッションが今年度設立して間もないため、まだプラットフォームとしての位置付けにはなっていない。ツーリズムを他の産業と結びつける、スポーツとツーリズムを結びつける役割も本ビジョンの中で検討したい。
- ・ 静岡県をどうアピールするか、メッセージを打ち出すべき。スポーツ合宿の聖地としてのアピール材料になる。また、ゴルフでは名門コースがあり、雪が降らない、富士山が見えるなど静岡県の特徴の一つで非常に魅力があるが、発信ができていない。業界の協会や各自自治体の観光協会との兼ね合いもあるが、静岡県にツーリズムで来る人たちの目的を踏まえ、静岡県の魅力を大々的にアピールし、ビジョンに盛り込んでいくべき。

⑤ 地域スポーツの環境整備、⑥ スポーツによるWell-Beingの向上

- ・ スポーツ協会の立場として、指導者不足は課題。一つの解決策として、アスリート雇用の仕組みをうまく活用することが重要。
- ・ 部活動の地域展開の動きはスポーツ産業だけの軸で議論するのは危険。教育の観点も含めてスポーツ推進審議会でも議論すべき。この場では、ビジネスに振り切って、議論を行っていくべき。
- ・ ⑤⑥共通の話として、経済・産業の軸で絞って検討した方が良いのではないか。この場においては、有償の指導がどの程度増えたかをKPIとしてはどうか。

⑦ アスリートのセカンドキャリア支援、⑧ スポーツビジネス人材の確保

- ・ キャリアサポート事業は、3年目で黒字化が見えてきた。企業のデュアルキャリアへの意識が低いので、もっともっとデュアルキャリアの価値を高めることを行政側が啓発していくことで、アスリートと企業のマッチングが増えていき、それが静岡の良さになる。

素案（事務局案）に対し、各委員・オブザーバーへ意見照会を行い、素案（パブコメ案）を策定。2月県議会 文化観光委員会へ提出した

委員	区分	御意見	対応
石黒委員	全体 施策 1 施策 3 施策 5	①ビジョン「スポーツコネクティッドフィールド」 p10に詳細の説明はあるのですが、端的な説明・どんな想いでこの言葉にしたのか（由来）を追加できないでしょうか。10年間色々なところで使っていく言葉だと思いますので関係者のこの言葉の共通理解は必須と思いました。 ・詳細説明を読めばフィールドは地域を指すと理解できますが言葉だけみると産業領域を指しているようにもみえました（その意味もありますか？）この部分も明確にする必要があるかと思います。 ・似たような話で「フィールド」=静岡県でしょうか？「スポーツコネクティッドフィールドしずおか」等、「静岡」が入っていた方がわかりやすいでしょうか。 ・コネクティッドかコネクティングは検討されたうえでのコネクティッドでしょうか？ビジョンを示す言葉としては確立した状況を示す-edが適切な気もしましたが、一方で受け身の印象があり-ingの方が自発的且つ終わりがいい（拡がり続ける）ニュアンスがあるようにも思いました。-edに異論があるわけではなく検討されたかの確認です。 * 2, 3 点目はこちらがよいという要望・意見ではなく検討済みかのご確認です。 p10 ②施策 3 ・「モーター、ビーチ・マリン、ゴルフ等新しいツーリズムの推進」というのは特に「新しい」わけではないので「県内リソースを活かしたツーリズム」的なニュアンスの方が適しているかと思います ・アウェイツーリズムの話も出ていたので、みるスポーツツーリズムについて施策 3 内で何かしら言及すべきだと思います。今から新たな K P I を立てるわけではなく、みるスポーツツーリズムは施策 1 の範疇で推進していくというような注釈でもよいと思います。 ・どこの自治体か失念してしまいましたが、自県チームのアウェイゲームの際に自治体がPRを行うといった取り組みを耳にしたことがあります（例えばエスパルスのvsFC東京（@東京）のアウェイゲームの際に自治体が東京のスタジアムに出向きブース設置→静岡県のPRを行うといった具合です）。アウェイツーリズム促進として施策 3（または 1）の自治体の取り組みとして参考になるかとおもい共有させていただきます。 ③施策 5 取り組みの方向性として（元）アスリートを対象にしたものに限定されていることに違和感があります。単にスポーツ産業従事者を増やす、スポーツで食っていける人を増やすといったニュアンスの文言もあった方がよいと思います。 p22 ④SNS価値 SNS価値は無形価値を貨幣評価した数値であり（認識違いでしたらご指摘ください）他のKPIと性質が異なること、他 2 つのKPIとダブルカウントしている恐れがあることから除外するのがよいかと考えました。 額的にも削除しても大きな影響はないように思います。 SNSを通じた広報活動を強調したいのならフォロワー数そのものをKPIとしてもよい気もしました。 （が、そもそも県がほとんどタッチできない部分だと思うのでその観点からも要検討かと）	①ビジョン「スポーツコネクティッドフィールド」 ⇒「※スポーツによって、人、企業、地域等が繋がり、新しい価値が常に創造される県」と追記 ②施策 3 ⇒「県内のリソースを活かしたスポーツツーリズムの拡大・推進」と追記 ③施策 5 ⇒「スポーツを職業として働くことができる機会をデュアルキャリアやセカンドキャリアを踏まえ創出」→「元アスリートを含め、スポーツ産業に従事する意欲のある人材を広く募集」に修正 ④SNS価値 ⇒市場規模の計算から削除（個別KPIとしてはそのまま）

素案（事務局案）に対し、各委員・オブザーバーへ意見照会を行い、素案（パブコメ案）を策定。2月県議会 文化観光委員会へ提出した

委員	区分	御意見	対応
中村委員	施策 2	【素案 P23】 「新規事業への投資額」について、ベンチャー企業における累計資金調達額が算出根拠になっていますが、まず、この「ベンチャー企業」の定義を明確に定義していただきたいです。 （例えば、「県内で創業（本社が存在）、もしくは事業所などの拠点を有する、創業10年以内の企業」など） また、資金調達額は当該企業のビジネス拡大を直接的に示すものではなく、現実的には開発資金等に充当されることも多いので新規事業創出のバロメーターとするには適切ではないと思料します。それよりは、フジ物産・山崎委員が指摘されているような、「県内の中堅・中小企業が、スポーツを活用した（スポーツクラブと連携した）新規事業創出に取り組んだ件数」を K P I とし、そこに定量的な指標を掛け合わせて新規事業への投資額を算出する方が望ましいと思います。	産業規模の算出方法について、中村委員から指摘のあった方法にて算出できないか、第3回検討会議の議題とする
中山委員	施策 2	「静岡県版スポーツプラットフォーム」の機能は「スポーツコミッション」が担うべき立ち位置。 現在のコミッションの体制では消化しきれないかもしれないが、10年スパンで考えた場合、コミッションが本来担うべき機能であり官民連携組織の見通しをつけるためにも、予算・人材の増強が必要。	施策 2 に「※スポーツコミッションを中心とした運営体制の構築を検討」と追記
馬瀬委員	施策 2 施策 3	①素案 9 ページの施策 2 について 「スポーツを通じた新たなビジネス展開による産業開発」とあるが、開発よりは産業創造あるいは産業創出の方が表現として良いのではないだろうか ②素案 9 ページの施策 3 について 「スポーツ合宿を行う拠点整備」を「スポーツ合宿を行う拠点整備並びに誘致に向けた情報発信強化」にしてはいかがでしょうか。すでに民間を含めて優れた施設も多いので、むしろ県としては一元的に情報発信を強化してほしいし、17 ページには「スポーツツーリズムの魅力発信」と謳ってある。逆に17 ページには「拠点整備」といった文言がないので、こちらは整合性を図る必要もあるのではないだろうか ③素案 16 ページの県の取組内容について 「場の提供」という曖昧な表現ではなく、マッチング件数 500 件という K P I を掲げていることも勘案すると、「ビジネスマッチングイベントの開催」と明記してほしい ④17 ページの県の施策について 「静岡県産業成長戦略会議」の資料では、59 ページに海外富裕層観光客の誘客拡大に向けた取組として「ゴルフ×富士山ツーリズム」が例示されている。本ビジョンの県の施策にも盛り込んでどうか 最後に、ビジョンの中身とは関係ありませんが、パブコメを実施するタイミングで、各種スポーツ関連団体やスポーツコミッション向けに、本ビジョンの説明会を開催していただくことを要望します。 ビジョンの K P I 達成のためには、関係者への周知、協力・参画が欠かせません。一カ所に集めての説明会は難しいので、WEBミーティングの形式にするとか、YouTube 配信にするとか工夫も必要でと思いますが、そこで我々には思いが及ばないような要望等を汲み取ることもできると思います。	①素案 9 ページの施策 2 について ⇒「産業開発」→「産業創造」に修正 ②素案 9 ページの施策 3 について ③素案 16 ページの県の取組内容について ④17 ページの県の施策について ⇒指摘通りに修正

素案（事務局案）に対し、各委員・オブザーバーへ意見照会を行い、素案（パブコメ案）を策定。2月県議会 文化観光委員会へ提出した

委員	区分	御意見	対応
山崎委員	施策 5	施策5に アスリートのキャリア形成に対する意識啓発と「実践企業への支援」を加えられないか？ （PVなどに実践企業名を公表する、あるいは金銭的支援などをイメージ）	施策 5 の県の取組において「官民が連携した、アスリートのキャリア支援スキームの構築（雇用創出、実践企業への支援）」と追記
静岡市	全体 施策 2 施策 3 施策 5	①6P 右下の脅威に「人口減少に伴う有償・無償のスタッフの減少、コスト増」を追加したかどうか。 ②9P 施策 3 大会を追加し「スポーツ合宿・大会を行う拠点整備」としたかどうか。 ③16P 市町の取組内容の「施設の提供」はどういうことを想定しているのかが分かりにくい。 ④17P 取組内容を「スポーツ合宿・大会」、「合宿・大会誘致」としたかどうか。 ⑤19P 施策 5 では、支える人材の内、職業として携わる人を主に想定していると思うのでそれが分かるようにしたかどうか。 例えば、「職業としてスポーツを支える人材の活用を通じて・・・」としたかどうか。	① ⇒ヒアリングした結果「静岡マラソンでの有償・無償スタッフの確保が困難になっている」ことが念頭にあるとのこと。スタッフの確保困難の原因が人口減少である、とは断定できないため、追記せず ②、④ ⇒指摘どおり修正 ③ ⇒「施設の提供」→「スポーツプラットフォームへの参画」に修正 ⑤ ⇒石黒委員の指摘と同様だったため、対応済み

5.静岡県議会 文化観光委員会での県議からの 質疑状況

県議から様々な意見があったものの、現在のビジョン（素案）に反映できているため 修正は行わないこととした

文化観光委員会

主な意見

- 部活動など、子どもがスポーツをする環境が先細りしている。一般県民がスポーツができる環境の確保につなげてもらいたい
- スポーツの本来の目的である、県民がスポーツに親しむという視点を置き去りにするべきでない
- スポーツ施設が少ない伊豆地域においても、スポーツの産業化に取り組んでもらいたい
- 施策の対象を広げすぎてしまっている。軸を決めて、施策の順位付けをすることが必要
- 効果を検証しながら取組みを進めて欲しい

意見への対応

- “みる”スポーツだけでなく“する”“支える”スポーツについても記載しており、従来から県が重視してきたスポーツによる健康づくりや Well-beingの向上といった視点も取り入れている
- 一方、スポーツ産業を推進するうえで“みる”スポーツが中心であると認識しているため、ビジョン内でも「“みる”スポーツの拡大に先行して取り組み、その成果を地域スポーツの振興など、他施策に波及させる」と記載している
- 県内各地域の資源を活用した施策の展開を想定している

6. 議論の検討資料

本県のスポーツ産業市場規模の全体額について、国の考え方をベースに独自の方法で算出した結果、概ね第2回会議時の試算結果と一致したため、本数値も踏まえ個別施策を検討

第2回会議資料		今回算出結果															
区分	市場規模算出	市場規模算出															
	考え方	考え方															
① しずおか スポーツ産業 市場規模 (全体額)	SSAの11分類ごとに静岡県の事業所数比率をかけ、全体額を算出 <table> <tr> <th>産業分類</th><th>金額（2021年）</th></tr> <tr> <td>スポーツ活動</td><td>30,732億円</td></tr> <tr> <td>スポーツ関連流通</td><td>20,292億円</td></tr> <tr> <td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>94,992億円</td></tr> </table> 静岡県の事業所数比率 ※平均値: 3% 3%と仮定した場合の試算値 概算：約2,850億円	産業分類	金額（2021年）	スポーツ活動	30,732億円	スポーツ関連流通	20,292億円	⋮	⋮	合 計	94,992億円						
産業分類	金額（2021年）																
スポーツ活動	30,732億円																
スポーツ関連流通	20,292億円																
⋮	⋮																
合 計	94,992億円																
SSAの11分類ごとに静岡県の事業所数比率をかけ、全体額を算出 <table> <tr> <th>産業分類</th><th>金額（2021年）</th><th>静岡県の事業所数比率（億円）</th></tr> <tr> <td>スポーツ活動</td><td>30,732億円</td><td>✕ 2.92% = 897.1</td></tr> <tr> <td>スポーツ関連流通</td><td>20,292億円</td><td>✕ 3.21% = 133.5</td></tr> <tr> <td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>94,992億円</td><td>平均3.01%</td></tr> </table> 11分類ごとに事業所数比率をかけ、積み上げ 静岡県：2,863億円	産業分類	金額（2021年）	静岡県の事業所数比率（億円）	スポーツ活動	30,732億円	✕ 2.92% = 897.1	スポーツ関連流通	20,292億円	✕ 3.21% = 133.5	⋮	⋮	⋮	合 計	94,992億円	平均3.01%		
産業分類	金額（2021年）	静岡県の事業所数比率（億円）															
スポーツ活動	30,732億円	✕ 2.92% = 897.1															
スポーツ関連流通	20,292億円	✕ 3.21% = 133.5															
⋮	⋮	⋮															
合 計	94,992億円	平均3.01%															
本県を表す指標として、本県の事業所数比率として一般的に使用される3%で計算	- 静岡県の事業所数情報とSSAスポーツGDPの11分類を結びつける学術的な担保がないため、静岡県の方法にて算出 - 結果として、静岡県の事業所数比率は3.01%の2,863億円であり、第2回会議時に提示した試算と近い結果となった																

静岡県の事業所数比率より算出した静岡県のスポーツ産業市場規模は、3.01%となった また、スポーツ食品・飲料およびスポーツ旅行サービスが比較的高いことが判明

No	スポーツ産業分類	2021年 スポーツGDP (億円)	静岡県における 事業所数比率	静岡県スポーツ産業市場規模 (億円)
1	スポーツ活動 (スポーツ施設運営、プロスポーツや競輪競馬等)	30,732	2.92%	897.1
2	スポーツ関連流通 (鉄道業、道路貨物運送業、航空運輸業等)	4,161	3.21%	133.5
3	スポーツ教育 (学校教育(幼稚園、小・中・高、専修学校等))	14,914	2.86%	426.7
4	スポーツ関連メディア(広告業)	7,721	2.40%	185.7
5	スポーツ用品・アパレル (繊維工業(製糸業、紡績業、外衣・シャツ製造業等))	6,843	2.88%	197.1
6	スポーツ食品・飲料 (清涼飲料製造業、その他の食料品製造業)	2,850	4.83%	137.8
7	スポーツ医療 (サービス用・娯楽用機械器具製造業 等)	2,240	3.15%	70.4
8	スポーツ施設建設 (土木工事業、建築工事業 等)	1,062	3.26%	34.6
9	スポーツ旅行サービス (宿泊業)	474	4.60%	21.8
10	スポーツ保険	208	※	6.2
11	その他 (ゴム製品製造業、スポーツ・娯楽用品賃貸業、学術・ 開発研究機関、社会教育 等)	23,788	3.16%	752.5
	合計	94,993		2,863

※事業所数が不明なため、事業所数比率の平均と同率とした

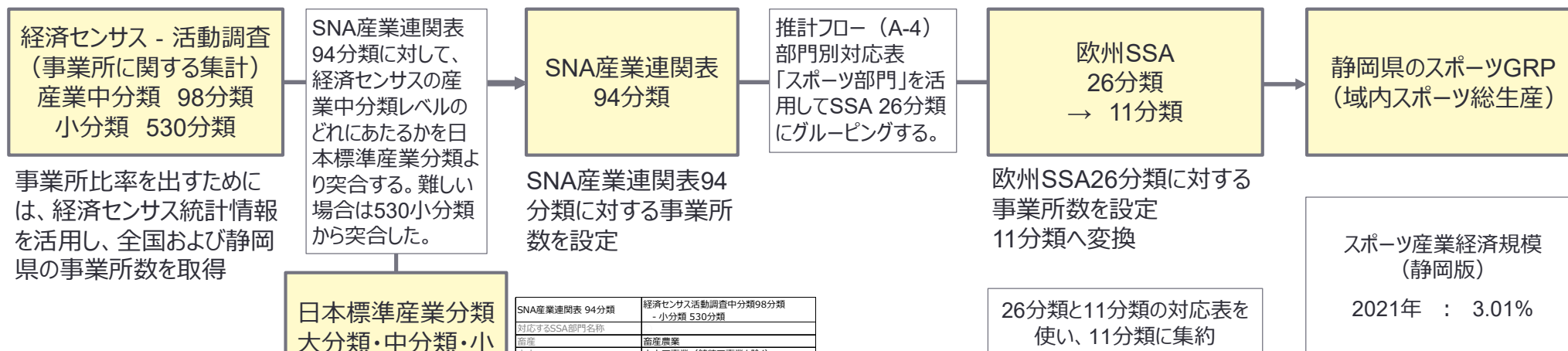
静岡県のスポーツ市場規模は全国の

3.01%

SSAの11分類に対する静岡県独自の計算方法（詳細）

- 静岡県の事業所数情報とSSAスポーツGDPの11分類を結びつける学術的な担保がないため、以下の方法にて静岡独自の算出方法として対応することとする。
- なお、以下の方法では、簡易的に「スポーツ部門」のみに対する分類分けで計算するため、誤差は生じることが予想される。

〇作業フロー



70. 物品賃貸業
700. 管理、補助的経済活動を行う事業所（70. 物品賃貸業）
701. 各種物品賃貸業
702. 総合リース業
703. その他の各種物品賃貸業
704. 産業用機械器具賃貸業
705. 事務用機械器具賃貸業
706. 自動車賃貸業
707. スポーツ・娯楽用品賃貸業
708. その他の物品賃貸業
709. 音楽・映像記録物賃貸業（別掲を除く）
710. 他に分類されない物品賃貸業

80. 娯楽業
800. 管理、補助的経済活動を行う事業所（80. 娯楽業）
801. 映画館
802. 興行場（別掲を除く）、興行団
803. 競輪・競馬等の競走場、競技団
804. スポーツ施設提供業
805. テニスコート
806. スポーツ施設提供業（別掲を除く）
807. 体育館
808. ゴルフ場
809. ゴルフ練習場
80E. ボウリング場
80F. テニス場
80G. バッティング・テニス練習場
80H. フィットネスクラブ
805. 公園、遊園地
806. 遊戯場
80A. ユーザンクラブ
80K. パチンコホール
80L. ゲームセンター
80M. その他の遊戯場
80N. その他の娯楽業
80O. カラオケボックス業
80P. 娯楽に附帯するサービス業
80R. 他に分類されない娯楽業

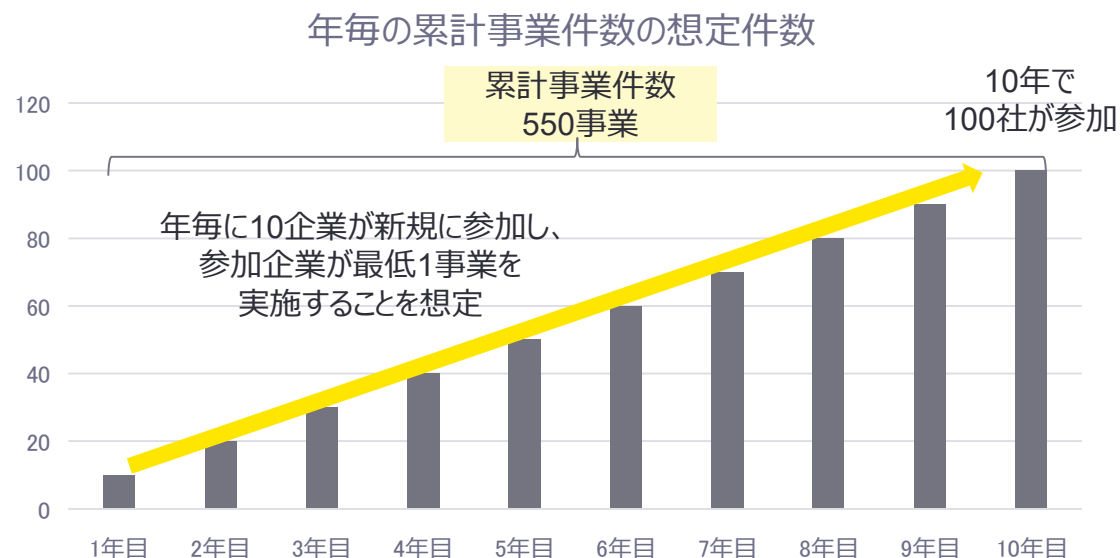
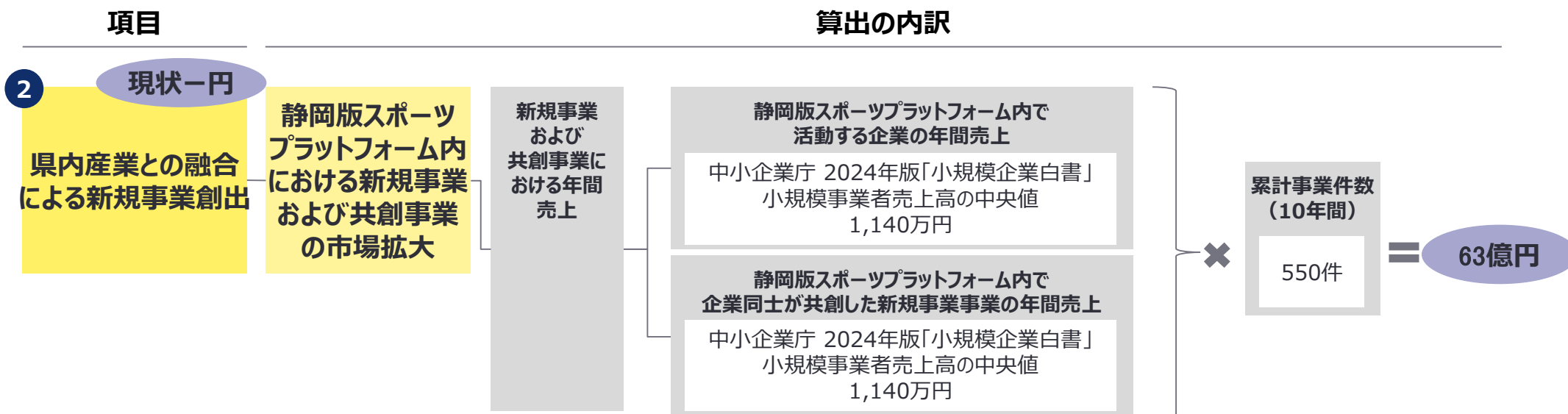
SNA産業連関表 94分類	経済センサス活動調査中分類98分類 - 小分類 530分類
対応するSSA部門名称	
畜産	畜産農業
土木	土木工事業（舗装工事業を除く）
建築	建築工事業（木造建築工事業を除く）
その他の食料品	その他の食料品製造業
飲料	清涼飲料製造業
衣服・身の回り品	繊維工業
その他の化学製品	その他の化学工業
ゴム製品	ゴム製品製造業
皮革・皮革製品・毛皮製品	なめし革・同製品・毛皮製造業
業務用機械	サービス用・娯楽用機械器具製造業
船舶・同修理	船舶製造・修理業、船舶機関製造業
その他の輸送用機械・同修理	その他の輸送用機械器具製造業
その他の製造工業製品	運動用具製造業
放送	放送業
映像・音声・文字情報制作	映像・音声・文字情報制作業
情報サービス	ソフトウェア業
通信・インターネット・付随サービス	インターネット付随サービス業
鉄道輸送	鉄道業
道路輸送	道路貨物運送業
航空輸送	航空運送業
不動産賃貸	不動産賃貸業（貸家業、貸間業を除く）
物品賃貸サービス（不動産業を除く）	スポーツ・娯楽用品賃貸業
（政府・非営利）学術研究、研究	学術・開発研究機関
広告	広告業
獣医療	獣医療
宿泊業	宿泊業
娯楽	娯楽業
（政府・非営利）教育	学校教育
（政府・非営利）社会教育、その他	社会教育
その他の対個人サービス	スポーツ・健康教授業
医療・保健	医療業
（政府）公務	国家公務

前掲までの26分類	対応する分類
1. スポーツ活動	スポーツ施設運営
1-a. スポーツ施設提供業	競輪・競馬等の公営競技
1-b. 競輪・競馬等の競走場・競技団	プロスポーツ（興行）
1-c. 興行場（映画館を除く）、興行団	スポーツ指導
1-d. スポーツ・健康教授業	スポーツ振興くじ
1-e. その他個人サービス（スポーツ振興くじ）	スポーツ関連流通
2. 娯楽・輸送	スポーツ教育
3. 教育	スポーツ関連メディア
4. 食料・飲料	スポーツ用品・飲料
5. 電力・ガス・水道等	その他
6. 健康	スポーツ医療
7. 健康	スポーツ用品・アパレル
8. スポーツ用品	スポーツ旅行サービス
9. ホテル・レストラン	スポーツ施設建設
10. 建設	スポーツ医療
11. 娯楽サービス	スポーツ関連メディア
12. 輸送用機械	その他
13. 機械設備・レンタル	その他
14. 研究開発	その他
15. 金融・保険	その他
16. アパレル	スポーツ用品・アパレル
17. 娯楽	その他
18. 娯楽・ビジネス活動	スポーツ関連メディア
19. 娯楽品	スポーツ医療
20. 各種金属製品	その他
21. 保険	スポーツ保険
22. 機械設備・レンタル	その他
23. 娯楽	その他
24. ゴム製品	その他
25. 印刷・石油	その他
26. その他	その他

#	産業分類
1	スポーツ活動
1-a	スポーツ施設運営
1-b	競輪・競馬等の公営競技
1-c	プロスポーツ（興行）
1-d	スポーツ指導
1-e	スポーツ振興くじ
2	スポーツ関連流通
3	スポーツ教育
4	スポーツ関連メディア
5	スポーツ用品・飲料
6	スポーツ医療
7	スポーツ用品・アパレル
8	スポーツ旅行サービス
9	スポーツ施設建設
10	スポーツ保険
11	その他

スポーツの関連分類を抽出
中分類で判断できないものは小分類で確認

施策②県内産業とスポーツ分野の共創事業展開 計算内訳



7. 議論していただきたいポイント

「しずおかスポーツ産業ビジョン」の検討にあたって本日議論していただきたいポイント

1

＜ビジョン素案決定＞
スポーツの成長産業化
に向けたKPI設定、
具体的施策の決定

- KPIの設定がふさわしいか
 - ✓ 静岡県のスポーツ産業市場規模（全体額）について
 - ✓ 施策2（県内産業とスポーツ分野の共創事業展開）の市場規模の算出方法について
- 具体的な取組内容がふさわしいか
 - ✓ 追記する内容
 - ✓ 修正する内容

本日議論

2

＜ビジョン決定＞
スポーツの成長産業化
に向けたビジョンの決定

- パブリックコメントにおける意見を踏まえ、「しずおかスポーツ産業ビジョン」の内容がふさわしいか

次回議論

8. 參考資料

施策②県内産業とスポーツ分野の共創事業展開 計算内訳

修正前

項目		算出の内訳				
2	現状0円	新規事業への投資額	ベンチャー企業における累計資金調達額	レイター（シリーズD以上）社数 1社（10年後）	✕	累計資金調達額 40億円/10年
	ユニファ株式会社のような設立から10年超で約100億円を調達			想定額		
	ミドル（シリーズB上～C）社数 3社（10年後）			累計資金調達額 10億円/10年		
	事業が軌道に乗り、生産量や顧客数が伸びている段階。黒字化の目途が立ち、従業員数も数十人以上の規模へ			想定額		
				アーリー（シリーズA～B中） 10社（10年後）	✕	累計資金調達額 1億円/10年
				製品やサービスの提供が始まった段階。顧客に試してもらいつつ、試行錯誤しながら改良を重ねて行っている。赤字で先行投資状況。		想定額
		静岡県内企業・団体との新規事業		県内企業やスポーツチーム等とのマッチングを推進した新たな事業創出		
				プロスポーツチーム、大学、金融機関、スポーツコミッション、スポーツ協会、県内企業、市区町村、スタートアップとのオープンイノベーションによるスポーツビジネスの創出による地域経済の発展を想定		